

OBDを活用した検査の高度化に関する調査について

概要

自動車検査独立行政法人の第三期中期計画において、車載式故障診断装置を活用した排出ガス検査方法の検討を進めることとされていることを踏まえ、今年度、所要の調査を行うこととしており、その一環として検査用機器としての使用性の観点から別添により標準仕様スキャンツール試作機の評価を行いたいと考えています。

自動車検査独立行政法人中期計画(抜粋)

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 審査方法の改善

高度化する排出ガス低減技術に的確に対応した審査を実施するため、車載式故障診断装置を活用した排出ガス検査方法の検討を進め、その導入を目指します。

2. 新たな審査方法の検討

自動車検査の質を高め、審査業務の効果を向上させるため、車載式故障診断装置を活用した燃費に影響する項目の診断する機器を用いた検査、必要な点検・整備が実施されていない自動車に対する検査等、自動車や検査機器の技術の進展状況等に応じて、新たな審査手法の調査検討を行います。

標準仕様スキャンツールの試作機の評価について

1. 経緯

国土交通省の検討会において、標準仕様スキャンツールの試作機の評価を整備工場において行うための調整が進められているところ、自動車検査独立行政法人（以下「検査法人」という。）においても、現在行っている排出ガスに係る OBD 審査の導入可能性の検討の一環として、スキャンツールの使用性等について評価を行うことになっていることから、この機会に併せて標準仕様スキャンツール試作機の評価を行うこととする。

2. 評価内容

(1) 評価要素

検査法人においては、OBD では排出ガスに係る規制に関してのみ確認することから、標準仕様スキャンツールで確認する内容はダイアグコードまでとなることが想定されるため、試作機の評価は、診断の内容の詳細ではなく、現場でダイアグコードの確認を円滑に行えるかどうかという点が重要となる。

このため、評価は、ダイアグコード確認までの操作時間、操作の容易性、画面の見やすさ等について行う。

(2) 評価の際の関係情報の収集

評価の際に、検査場等において実際の車両の確認を行うが、市場における実態を把握する観点から、確認を行った車両の情報、確認時の警告灯の点灯の有無、確認された排出ガスに係る不具合情報等のダイアグコード等を記録する。

(3) 評価書の様式

(1) 及び (2) を踏まえ、評価は別紙の評価書を用いて行う。

3. 留意事項

現状、検査法人においては、排出ガスに係る OBD 審査の導入可能性の検討をしている段階であることから、今回の評価結果はその段階におけるものであることに留意する必要がある。

別紙

自動車検査独立行政法人

排出ガスに係るOBD審査の検討において車両確認時に使用した標準仕様スキャンツールの評価のための調査票

車名	
車両型式	
登録年月	
確認車両の抽出方法	調査用に特別調達
	受検者に依頼

確認時のJ-OBD 警告灯の点灯有無	有り
	無し

ダイアグコード(DTC)の確認 (検出された排出ガスに係るコードを全て記載)	有り				
	無し				

レディネスコードの確認 (ダイアグコードがない場合のみ)	有り
	無し

確認に要した時間	約	秒		
操作性	優	良		可
画面の見やすさ	優	良		可
その他				

使用したスキャンツール名	
--------------	--